インフルエンザ予防接種を受ける前に

【 ワクチンの効果と副反応 】

インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化予防に効果があるとされています。副反応は一般的に軽微です。注射ワクチンでは、接種部位の発赤・腫脹・疼痛や、まれに発疹、紅斑、掻痒感、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感等、経鼻ワクチンでは、鼻水、鼻づまり、咳、咽頭痛等を認めることがありますが、通常数日間で消失します。非常にまれに重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫等)があらわれることがあります。

【 予防接種を受けることができない人 】

① 明らかな発熱のある人(37．5℃以上)
② 重篤な急性疾患にかかっている人
③ インフルエンザワクチンの接種液の成分によって、アナフィラキシーを呈したことがある人
④ (経鼻ワクチン接種の場合)明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する人及び免疫抑制をきたす治療を受けている人
⑤ (経鼻ワクチン接種の場合)経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している方
⑥ (経鼻ワクチン接種の場合)妊娠していることが明らかな人
⑦ その他、医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した場合

【 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人 】

① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人
② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた人、及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
③ 過去にけいれんの既往のある人
④ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
⑤ インフルエンザワクチンの成分または鶏卵、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーを呈するおそれのある人
⑥ (注射ワクチン接種の場合)間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する人
⑦ (注射ワクチン接種の場合)妊婦または妊娠している可能性のある人
⑧ (経鼻ワクチン接種の場合)重度の喘息を有する人または喘鳴の症状がある人
⑨ (経鼻ワクチン接種の場合)ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対してショック、アナフィラキシー等の過敏症の既往がある人

【 予防接種を受けた後の注意事項 】

① 予防接種の後は、まれに重大な副反応(ショックやアナフィラキシー等)が起こることがあります。
接種後30分以内は、医師(医療機関)とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴に差し支えありません。
③ 接種当日は、いつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動は避けましょう。
④ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
⑤ (経鼻ワクチン接種の場合)接種後1～2週間は重度の免疫不全者との密接な接触は避けてください。

【 予防接種による健康被害救済制度 】

予防接種は感染症予防に重要なものですが、極めてまれに副反応による健康被害の発生がみられます。インフルエンザ予防接種は任意接種であるため、万一、健康被害が生じた場合は、予防接種法による健康被害救済制度の対象にはなりませんが、PMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)法に基づく医薬品副作用被害救済制度が受けられる場合があります。